

京都を愛するすべての人へ

大垣書店から雑誌「KYOTOZINE（キョウトジン）」10月31日 創刊

～まったく新しい京都のタウン誌を大垣書店から発信していきます～

株式会社大垣書店(本社:京都市北区、代表取締役社長:大垣全央)は、2024年10月31日に京都を愛するすべての人へ・京都の新しいタウン誌『KYOTOZINE』を創刊いたします。

京都の地元書店である大垣書店が、書店の垣根を越えたコラボレーションや、誌面と店舗とが連動した企画をお届けします。

記

概要

『KYOTOZINE』創刊号(Issue 01“Work in Kyoto”)

定型A4サイズ、124P(フルカラー)

販売価格 1,800 円+ 税、2024年10月31日刊行

ISBNコード:978-4-903954-84-4 C0420

【編集長】大垣守可

【発行人】大垣守弘

【発行】大垣書店

【design】AD 庄司竜郎 / Symbol Mark 三重野龍

【コンセプトワーク/ネーミング】木村元紀

【販売場所】大垣書店 各店 ほか

KYOTOZINE ONLINE STORE

【詳細】<https://www.books-ogaki.co.jp/>

モデル:松本隆

特集1 テーマ:京都の、はたらく

- インタビュー 10FEET ほか
- “美” 蓄食一京都料理芽生会の新たなチャンレジ
- 京都会社訪問記(HORIZON、NISSHA) etc…

特集2 テーマ:働いたら、ごほうび

- 人生に一度のご褒美を選ぶ楽しさ
- ご褒美のごちそう、私の場合 松本隆 ほか
- 風呂はしあわせ 銭湯ダイスキ座談会 銭湯のススメ etc…

連載

- Column:明日を生きるための京都 Vol.01(文:土門蘭、絵:蛭子睦月)
- Essay:編集者目線の京都(あまから手帖編集長 江部拓弥)
- Interview:小説家 澤田瞳子
- music:春夏秋冬ミュージック(藤原食品 藤原和也)ほか
- アート情報 / 映画情報
- 書店員による絵本選書 etc…

登場人物

松浦俊昭(壬生寺貫主)/立川吉笑(落語家)/金氏徹平(現代美術アーティスト)/松本隆(作詞家)

松井孝治(京都市長)/赤松玉女(京都市立芸術大学)/江部拓弥(あまから手帖 編集長)

須藤玲子(テキスタイルデザイナー) ほか

創刊に至る経緯

この度、書店である弊社が雑誌を創刊することになりました。

弊社は「地域に必要とされる書店であり続けよう」を社是に日々書店業に勤しんでいるところです。おかげさまで多くの方にご愛顧いただいております。昨年の麻布台ヒルズへの出店など書店という場をいかに次の世代に残していくか、挑戦を続けています。

そんな中、昨年12月に京都のタウン誌『Leaf』が休刊となりました。『Leaf』は京都を気軽に紹介する雑誌として市民に親しまれてきたメディアです。それを受け、私たちができることを・すべきことを考えていたところに浮かんだのが、京都の雑誌を復活させることです。

弊社は2007年に出版業務を開始、自費出版を中心に「本づくり」をはじめました。その後2021年には、「本をつくれる本屋」をコンセプトに、カフェ、ギャラリー、本屋、印刷工房が入居した複合施設、堀川新文化ビルディングが開業しました。このように「本づくり」ができる場を増やしているのは、未来の書店像に「本づくり」がマッチしていると考えたからです。弊社内において「地域に必要とされる書店」とはこれまで主に店舗運営という視点で語られてきましたが、地域の方に愛される雑誌を新しいかたちで継続していくということも地域に必要とされることなのではないかと考え、雑誌づくりに新たに挑戦することになりました。

『KYOTOZINE』は、上記『Leaf』の制作にかかわっていた編集者、ライター、デザイナー、カメラマンなどにも手伝っていただいています。一度失われかけた枠組みを新たに構築し、京都から本づくりの力を失わせないこと。その力を京都に住む人々と京都を愛する人々へお届けすることが、弊社の使命と心に刻み、制作を進めました。

とはいえ初めての雑誌作り、粗いところもあるかと思いますが、応援いただけますと幸いです。また、お気づきの点がございましたら厳しいご意見もお待ちしております。



編集人:大垣守可

以上

【本件に関するお問合せ】

〒603-8148京都市北区小山西花池町1-1

株式会社 大垣書店 KYOTOZINE編集部

TEL:075-468-1411

e-mail:kyotozine@books-ogaki.co.jp